

いぬはりに

vol.

04

Creator's voice

有田昌史インタビュー

懐かしくて新しい
100年先まで受け継ぐデザイン

モルファンブロックで作る未来都市

「PARK VIEW」

テイク ジー・トイズ——中川岳二

温もりいっぱい、木のブロック

Jakuetsu research

小さなタグが子どもを守る

北欧だより

舞台も小道具もみんなで手作りスウェーデンの保育園の演劇活動

いぬはりに見聞録

ジャクエツのくれよんができるまで

有田昌史インタビュー

懐かしくて新しい 100年先まで受け継ぐデザイン

ここは東京・世田谷ものづくり学校 (IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN)。
旧池尻中学校舎を利用して誕生した、さまざまなアーティストが集まる、想像力と好奇心に満ちた空間。
旧校長室だったというアトリエを訪ねると、国内外で注目を集めるテキスタイルデザイナー・有田昌史さんが登場。
窓からこぼれる校庭の新緑を眺めつつ、少年時代の話からジャクエツとのコラボレーション作品に至るまで、
さわやかな笑顔で語っていただきました。



有田昌史 (Masafumi Arita)

グラフィック&テキスタイルデザイナー

1966年、鳥根県出雲生まれ。大手企業のアートセクションで活躍後、グラフィックデザイナーとして独立。「Esperanto」(中立公平な国際共通語)を合言葉に万国の民芸モチーフをモダンテイストで表現するテキスタイル・ブランド「New Esperanto Label (ニューエスペ란トレーベル)」で数々のテキスタイルを発表。ファッション、インテリアとしてU.A.、BEAMS、Iwana、IDEE、CIBONE、Baden Baden等で展開。海外でも注目されるなど、多方面で活躍中。



1階111号室が有田さんのオフィス兼アトリエ。アフガンの職人ががていねいにハンドメイドしたラグが並ぶ廊下。右上のヒゲおじさんはこの部屋の主、粘土オブジェの校長先生!?

——子ども時代、アートとの出会いは?

図鑑が大好きで、文字の読めない頃から図書館にでかけては、医学書や博物学の本を飽きずに眺め続ける、変わった子(笑)。四歳の頃からは、自分で表現する楽しさを感じ、お得意の空想で奇妙キテレツなヒーローや怪物を考え、絵に描いていました。

——アートの世界に足を踏み入れたきっかけは?

多くの青春時代には、アバンギャルドやモードなど、ファッションから音楽、映画など、あらゆるサブカルチャーが流行し、いろんな影響を受けました。でも、一方では、西洋の美術史や建築に興味を抱き、美術館めぐりや多くの本を読んで研究を重ねました。多くの生き方がアートに向かったのは、呼吸に近い感覚。心臓が鼓動するのと同じくらい、自然なことでした。

——1998年、「New Esperanto Label」(NEL)を立ち上げ、2001年には、同レーベルでテキスタイルブランド発表。なぜ、テキスタイルのデザインを手がけよう?

市場で、最も深く浸透している文化は、衣・食・住などファッションやインテリアの分野。ぼくがテキスタイルで平面に起こしたものを、それぞれの世界のクリエイターが立体として新たな作品を生み出す。平面から多様に広がる世界に、とても魅力を感じます。——アrita流、テキスタイルデザインの特徴は?

世界各国で人々に愛されてきた「民



有田さんが手がけた絵本「IGLOO」。北極圏のエコロジカルな氷の住居「イグルー」で暮らしている、イヌイットの物語。

芸」をモチーフに、これから100年先まで長く息づく新しい民芸、未来の民芸を表現したい。「北欧的ですな」とも言われますが、ぼくはただ、自分にとって心地よいものを作っているだけ。ポイントも、心地よい余韻とレイアウト、間の使い方。今後も、北欧デザインを取り入れるというより、むしろ北欧に向けて多くのデザインを発信したいですね。

——イメージ発想の源は?

半分は直感。半分は、世の中の動きを見ていて論理的に思考するもの。世の中のニーズに答えるより、自分の中でコンセプトを考え、それを伝えたい。もちろん、そうするには勉強が必要なので、意識的にいろんな本を読むようにしています。

——デザインの手法は?

やっぱり手描きが気持ちいい。いつも鉛筆とスケッチブックを持ち歩き、ひらめいたことを表現します。自然の木々や葉、流れる雲のカタチからイメ



ージが浮かんできたり。ある程度コンピュータが決まったら、コンピューターに落とし、色をつけます。

——色使いのこだわりは？

クラフト感のある、あたたかみが大切。たとえば、形がシャープでも色彩は土臭いイメージとか。何でもデジタルに物事が処理されている世の中だからこそ、あえて人間味のある色を使いたい。朱赤やスモーキーな紺色が多いかな。これは昔から民族衣装にも多く使われる色なんです。

——ジャクエツとの初コラボ作品は「ウオッシュャブルマット」「ホワイトボード」「連絡帳」ですね！

じつは子ども向けの商品開発は今回が初めて。以前からやりたいと望んでいたのうれしいです。マットはクジラ、ゾウ、カメの三種類。子どもにとってどっしりと安心感を与える動物たち。全体の姿を見せず、デフォルメしたデザイン。一見「なんだろう？」と、



(上) 親子のウズラが語るうキュートな「ウズラ」柄。(左) “竹”モチーフの和風トリコロール「トリコ」で作ったヤコブセンのセブンチェア。

子どもたちの想像力をかきたてるはず。色は、あえて違和感のある色を採用。男の子は青、女の子はピンク、といった固定概念を壊したいと思って(笑)。

ボードや連絡帳のモチーフにしたイルカは、セラピーにも使われるなど、コミュニケーションツールにぴったりの動物。イラストを見ながら、親子や友だち、先生との会話が広がるとうれしいですね。

——商品を通して子どもたちに感じてほしいことは？

最初は無意識でいいと思います。むしろ、親や先生が楽しんでくれたらいいね。そうすれば、子どもは自然に意識するようになりますから。

——今後の夢は？

いつか、総合病院やホスピスのディレクションを手がけてみたい。人々に有機的で、治療により効果が生まれそうな空間を。こういう場所にこそ、デザインが必要だと思っています。



ジャクエツとのコラボ作品。(上)「ウオッシュャブルマット エレファント」¥8,400(税込) サイズ:60×120(cm)。(右)「ホワイトボード ドルフィン」¥29,925(税込) サイズ:本体41×全長84(cm)、木製マグネット2個付き。





テキスタイルデザイナーの有田昌史さんが、ジャクエツの人気商品「モルファンブロック」で制作したジオラマ作品。まるで未来都市に出てきそうな建築物が立ち並ぶ。背景は、NY・セントラルパークからのぞむ摩天楼を描いた有田さんのデザイン画。眺めていると、ここに暮らす人たちの息づかいが聞こえてきそう…！

もともと建築や設計に造詣が深く、物心ついた頃から未来都市を描いたマンガや模型写真、ユニークかつ大胆な建築物が大好きだった有田さん。そして、じつは大のブロック好きという一面も。「五歳の息子さんといっしょに遊んでいるのですか？」という問いに、「いえ、むしろ息子が寝た後、自分だけでたっぷり時間をかけながら楽しんでいます（笑）」というお答えが。

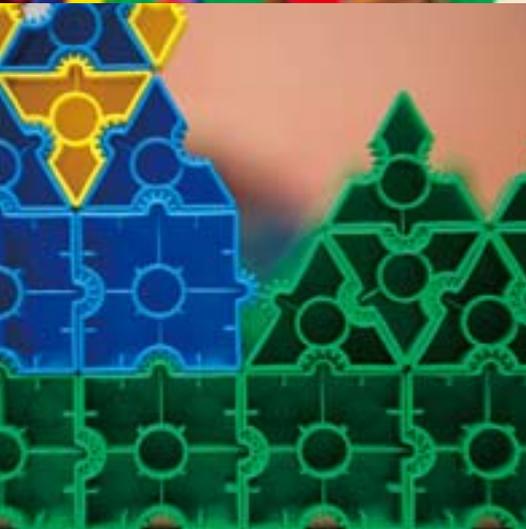
それならば、作っていただきましょうーと、有田さんの前に、どーんと600ピースのモルファンブロックが詰まったケースが登場。それから約一週間、多忙な仕事の合間をぬって、試作品を作ったり、いろんなパターンを考えたり、楽しみながら制作したのが、今回の立体作品です。

テーマは「PARK VIEW」。「緑の森を土台に、手前の黄色群は集合住宅、後ろの青と黄色の建物はハイテクでパブリックなイメージの高層ビル、そして赤と黒はちょっと怪しげで悪のニオイが漂う工業地帯（笑）。じつと見ていると、手前の森の小道をジヨギングしている人や、建物の間を歩き交う車、高層階の部屋でパソコンをたたく人…、いろいろな様子が目に浮かぶでしょう？」

有田さん流のポイントは「制約から生まれるおもしろさ」。「色は混ぜないで使う」「三角は三角、四角は四角と組み合わせる」など、あえてルールや法則を作ると、思いもよらない発見があり、クオリティーの高いものが生まれるそう。



赤の国、青の国。
想像力ふくらむ
ファンタジー世界を
作ろう



600個のピース全てを机に広げ、まずは色分けからスタート。赤、青、黄、緑、白、黒。カラフルなピースの中から、まよわず緑色をピックアップした有田さん。ジオラマの土台となる緑の森を、まるで設計図でも見ているような正確な動きで次々に組み合わせていく。少年のころを思わせる、まっすぐで真剣な眼差し。遊び心の中にも美しい規則性やデザイン、ストーリー性が存在する、アリタワールド。そう、ブロックってこんなに楽しいものなんです！



今回使用したブロック

モルファンブロック
¥35,700 (税込)
サイズ：収納ケース／
48×34×高さ35cm
材質：ポリプロピレン
カラー：6色
(赤・青・黄・緑・白・黒)
内容：6色全7種類
計600ピース付き

「モルファンブロックは、四角だけでなく三角のピースもあるのがいいね。上下、左右、斜めにジョイントさせ、ユニークな連続性をもった作品ができます。園で子どもたちが作るときは、六色のピースをそれぞれ六つのグループに分け、「赤の国」「戦士の国」「緑の国」「インディアン」などテーマを決め、ファンタジー世界を作るのもおもしろい。また、『子どもの都市計画』という発想で、自由に街や建築物を作ってみるのもおすすめです」。



キミなら何を作る？ 温もりいっぱい、木のブロック

テイクジー・トイズ
中川岳二



やさしい手ざわり、味のある色合い、かちつと響く音色。木の素材ならではの魅力がじまんの「テイクジー・ブロック」。木工作家の中川岳二さんとジャクエツとのコラボレーションで生まれた、話題の傑作おもちゃです。写真の乗り物は、たったの一例。想像力とアイデアしだいで何百通りもできちゃいます。こんなブロック、見たことない…！



——木の出会いには？
大学時代、何を専攻するか考えたとき、これからは環境を考慮したものづくりを視野に入れ、大量生産じゃなく、一つのを長く大切に使う時代だと感じました。それで、自然素材の木工を選んだんです。初めて木を削った感覚も、自分にあっている気がして。
——なぜ、木のおもちゃ作家に？



「テイクジー・ブロック チャイルドセット」 ¥39,900 (税込)
サイズ：化粧ケース／44.5×32×高さ5.5 (cm)
材質：メープル・ウォルナット、チェリー (ウレタン塗装)
内容：全15種 計40個

——木の魅力は何でしょう？
一言ではむずかしいですが、まず、木の色味。ぼくは寄せ木で4色の木を使いますが、4色よりもっと多く使っているように見えます。木目の方向と光の当たり方で、全くちがう表情になる。同じ種類の木でとなりに生えていても、それぞれ個性はちがいます。
——学生時代は、百年二百年使えるイスを作ろう、と思っていました。でも、なかなか自分の考えるコンセプトを具現化する作品ができずに悩んだ時期が。そんなとき、もっと自分らしさを認めよう、と思っただけです。ぼくはアニメーションやマンガなどポップカルチャーの中で生きてきた世代。そんな自分だからできることを楽しくやろう、と。それで自分の好きなおもちゃを作ろうと思っただけです。



船、飛行機、列車、自動車。アイデアしだいで、自分だけの乗り物ができちゃうよ！



木を切っただけでもおいがちがう。これは堅いな、とおいから感じたり。樹木は有機物。とても不思議で豊かで、複雑な存在です(笑)。

—— テイク ジー・トイズのロボットたちはどんな発想で生まれたのですか？

最近、各企業がい
ろいろな二足歩行ロ
ボットを作っていま
すね。でも、ぼくが
小さいころ夢見てい
たロボットとはちが
うし、未来感がない。
よし、それならば
が身近にいたら楽し
いと思うロボットを作ろう、と。金属
やプラスチックの素材ではなく、木で
作ったロボット。ぼくたちが本当に求
めている未来って、緑や自然が豊かな
環境じゃないかな？ そう考えると、
木のロボットがとても未来っぽく見え
てくるんです。



—— 制作工程を教えてください。

まず、原型を粘土で作ってから、正
確に図面に落としこむ。そこからは職
人に徹して、図面どおりにしていねいに
作っていきます。

—— ジャクエツとのコラボで生まれた
「テイクジー・ブロック」開発の意図
は？

時間をかけて制作する寄せ木の作品
は、やっぱり価格も高いので、なか
か子どもたちが気軽に遊ぶことはでき
ません。何かもっと、子どもたちに身

近なおもちゃを作
りたい。何歳の子
でも楽しく、いろいろ
遊び方ができるものを、
と考えたのが「テイク
ジー・ブロック」。メーブル、ウォル
ナット、チエリーという3種類の良質
な木材で作られています。

—— ブロックを量産するにあたって苦
労したことは？

ぼくの設計どおり、一つ一ついい
いに作ってくれる工場を探しました。
こんな細かい作業はできない、とい
う工場が多かったのですが、北海道で腕
のいいクラフトマンがたくさんそろっ
ている工場を見つけ、お願いすること
ができました。

—— 保育園や幼稚園の子どもたちに
どのようにブロックとふれあってもら
いますか？

もちろん、遊び方は自由。でも最初
に、ぼくが作った乗り物例を基本とし
て、作りながら観察しよう。そこから
想像力が生まれま
す。「ぼくが好き
な車はこんな
形」「私は
もっとか
っこよく
作る！」
と、自分
だけの乗
り物を作
ってみて
ください！



テイク ジー・トイズ 作家プロフィール

中川岳二 (Takeji Nakagawa)
1978年長野県生まれ、埼玉県育ち。2001
年武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科木
工専攻卒業。テイク ジー・トイズとして
活動を始める。2007年2月に東京・銀座
松屋「遊びのギャラリー」にて個展を予定。
(上)「アインとニーチェ」。このユニク
な表情のキャラクターたちが、あの物理學
者と哲学者!? “一石二鳥”をテーマに、
“一石”はドイツ語で“アインシュタイン”、
ニーチェは“二鳥”の語呂遊びでつけたと
いう、魅力いっぱいの寄せ木作品。

「風人、雷人、東京・青山に現る！」

ふだんは長野県中野市にあるアトリエで作品を制作している中川さんが、このたび上京するという話を聞き、東京・港区南青山のスパイラルで開催された「第7回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル」(5月2~5日)を訪ねました。

中川さんは今回、招待ブースに特別出展としての参加。つまり、参加したクリエイターのタマゴたちの憧れの存在なんです。

「あ、中川さんですか？ わあ、これが木のロボット？」と突然押しかけた「いぬはりこ」取材班に、「ゆっくり見ていってください」とやさしく声をかけてくださる中川さん。お言葉に甘えて…と、まず目を奪われたのが「風人と雷人」。寄せ木と木象嵌という手法でアイデアから3ヶ月かけて制作した大作。ちょっととぼけた表情といい、丸みを帯びた形状といい、愛嬌バツグン。寄せ木ならではの木目が生み出す美しさに惹きつけられてしまいます。

中川さんの原点ともいべき作品「カートチェア2」にも注目！(ちなみにカートチェア1は大学時代に制作)。「子ども用の家具。イスがカートに変わるんです」と、中川さんが組み換えを実演。イスとして座ったり、カートに乗って遊んだり。おもちゃと実用性が一つになったアイデア家具。遊び心いっぱいのあたたかい作品に触れ、心から癒された取材班でした。



朝の登園時、夕方の降園時は、たくさんの方が園に出入りする時間。だからこそ、不審者が紛れ込む心配も。子どもをあずけるお母さんたちも不安な表情。



case:1

不審者が園の中に入り込まないか心配…

IT技術で子どもを守る
小さなタグが
子どもを守る

近年、幼児や小学生がねらわれる凶悪な犯罪が多発し、連日ニュースや新聞で繰り返し報道されています。「これ以上、子どもたちを被害者にしたくない」と、家庭はもとより、学校、幼稚園、保育園での安全対策強化が求められる中、子どもの安全を「IT技術で守ろう」という取り組みが、各地域で始まっています。

case:3

お散歩、昼食、遊びの時間など、たびたび点呼をとる先生。気をつけていたはずなのに“いつのまにか一人いない！”なんて事態は絶対に避けたいもの。

〇〇ちゃんがないのに！
気を付けていたのに！



case:2

子どもが飛び出して
事故にでもあったら…



好奇心いっぱいの子供たち。園舎の外に、かわいい子犬を発見！「あ、犬がいる！」と出入り口から道路に飛び出して、交通事故にでもあったら大変！

負担をかけずに安全強化 ICT技術がもたらす役割

学校を例にとると、1999年から2002年までの3年間で、不法侵入や登下校時の事件件数は、1042件から2168件と約2倍に増加しているといえます。一方で、2004年度警察白書による「地域社会との連携」では、警察官の95%が

「安全は警察だけでは確保できない」と認識しています。つまり、警察だけに子どもの安全を任せられない時代、地域や各施設、そして家庭ががつちりタッグを組む体制づくりが大切です。さらにICT技術のサポートが加わることで、子どもたちの安全対策はよりパワーアップしています。実際に、ICTタグという技術を利用して安全管理に取り組み、橋本りんご保育園を訪ねました。

ICTタグとは、文字通りIC（集積回路）チップを埋め込んだタグ（札）のことで、そのタグから発信

される固有番号を受信機が受け取ることで、さまざまな防犯や園児の管理をすることができます。たとえば、玄関扉の解錠、園児の出欠席管理、延長保育の時間管理と料金計算、さらには職員タグでの園外保育の時間記録や園児のタグが出入り口に近い時にアラームを発するなどの、園のスムーズな運営に役立てられています。

「園の前がすぐ道路なので、子どもたちが飛びだしたり、部外者が入ってくるのを防止したかった」とICTタグ導入への動機を語る伊藤園長。

なるほど、この保育園では園児の保護者がみんなICタグを持っていて、通りに面した玄関は普段は自動で施錠されていますが、ICタグを持つ人が近づいたときだけ鍵が自動解錠されるシステム。逆に内側からは、少し高い位置にあるボタンを押すと鍵が開く仕組みなので、子どもの不意な飛び出しも防止できます。

「重視したのは、園の運営の中でより確かな防犯管理を行うということ。当然、防犯カメラを据える、鍵をかける、帳簿をつけるということですが、入出入りする人数が多いので、一つ一つ確認しながら管理するのは、実際なかなか難しい。開園中つねに職員がその管理に手を取られてしまいます。保護者や職員に負担をかけず、これらの課題をまとめて解決する方法として、ICTタグを利用してしています。今ではその分、職員

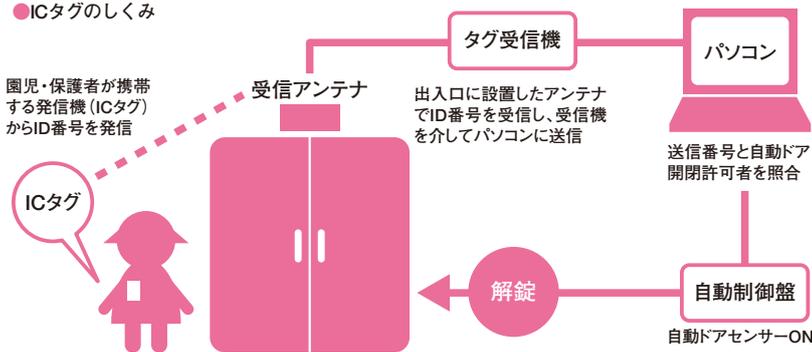
が保育に専念できます」。

子どもの安全を守るためのICT活用は、大きな広がりを見せています。とはいえ、最後に子どもたちを守るのは周りの大人たちです。ICTを上手に利用し、より安心・安全な環境で、子どもたちの成長を見守ってきたいですね。

（※）文部科学広報第46号より

タグを持つ人が出入り口の受信機に近づく、一人一人の登園・降園をしっかり確認し、扉が自動開閉する仕組み。

●ICタグのしくみ



園児・保護者が携帯する発信機 (ICタグ) からID番号を発信



◎ 北欧だより

舞台も小道具もみんなで作作り スウェーデンの保育園の演劇活動



スウェーデンの首都・ストックホルム市郊外にあるギラクセン保育園は、2年半前に建物を新築したきれいな保育園。園児は満1歳から6歳までの5クラス計80人、スタッフは20人。北欧の保育園ではふだんどんな遊びを取り入れているのでしょうか？ 室内での遊戯と遊具について、ギラクセンのメッテ・ホルメン園長に話をうかがいました。

建物の中心には、天井が高く大きなホールがあり、衝立で区切ってクラスごとに多目的に使います。テーブルを置いて食事や工作をしたり、園児全員で体操やお遊戯をする際は、衝立を取り払い、小さな体育館として使ったりします。遊具は手触りと耐久性を重視して木で作られた物が多く、年齢に合わせた大小さまざまなブロックも人気があります。

日々の授業には図画や工作のほか、歌や劇なども積極的に取り入れています。スウェーデンの保育園指導者の指針は、文部省から出版された「保育園の指導要領」という薄い冊子。小さいけれど内容の濃い冊子の中に、子どもが保育園で学ぶべき要素が適切にまとめられています。

ギラクセンでは特に「図形や色の名前がわかる」「基礎的な算数の概念がわかる」「できるだけ言葉を学ぶ」という3点を大事にしています。言葉については、園児の約3分の1が外国系の家庭で育っているため、彼らにとってスウェーデン語を習得する機会が保育園にいる間のみということが少なくありません。「言語はこれから社会生活をする上で一番大事なものとホルメン園長。3歳ごろから、単語をアルファベットで書く練習を始めます。

年少組では音楽の時間、「歌の袋」

に、保育士がその歌にちなんだ人形や小道具を入れ、それを見て歌のイメージを連想します。例えば「きらきら星」なら、星のモチーフと夜空を現す濃紺のフェルトが入っているという具合。

年長組になると、有名な物語をクラスで一つずつ選び、それを図画、工作、劇などで表現します。例えば「赤ずきん」を選んだクラスは、まず物語の筋を把握し、登場人物の絵を描きます。それから大きな紙で家や狼などの大道具を立体的に作り、劇の練習をします。

この表現活動は、約1年かけて制作する大きなプロジェクト。年度末には保護者を招いて劇を上演。また、近所の老人ホームへ慰問に訪れたりもします。子どもたちはみんな手作りの劇が大好き。古着を衣装に、プロの役者さながら登場人物になります。



文・写真／岡田幸（在・スウェーデン）

いぬはりこ見聞録

ジャクエツのくれよんが できるまで

「お絵描きする人、こっちにおいで！」
子どもたちが大好きなお絵描きの時間。どの子もくれよんを手に、自由なイメージをふくらませ、思い思いの絵を描きます。園児にとって、くれよんは一番なじみの深い画材。ジャクエツのくれよんを作っている、ぺんてる株式会社の工場をたずねました。



START

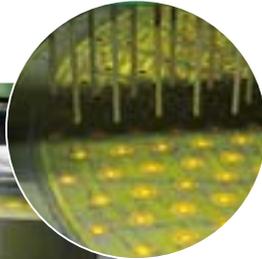
色のもととなる顔料とワックス（ろう）、定着剤などの原料を調合し、まぜ合わせます。この調合の割合で固めのくれよんと柔らかいバス（バステル）とに分かれます。

よく練った原料を型に流しこみ、冷水で固めて成型します。このとき、いつものくれよんの長さになり切ります。

顔料の粒子を細かくするため、ローラーにかけます。十分にローラーをかけることにより、描きごちがなめらかなくれよんに仕上がります。



上はみどり、下はしろのくれよんになります。



型にはまっているくれよんを細長い棒で押しだします。



成型されたくれよんたちが次々に誕生！もちろん、品質のチェックも欠かせません。

ラベルを巻いたら、できあがり！子どもの手に扱いやすく発色の美しい、じまんのくれよんです。

くれよんができました！



くれよん歴史ものがたり

じつは、古い歴史を持つくれよん。19世紀の末、フランスのパステル画家が紙に直接描ける棒状の絵の具を試作し、パリのクレヨン・コンテ社から「クレヨン」として発売されたのが、今日のくれよんの始まりです。日本へは大正6年にアメリカから輸入。筆を使わず、持ち運びも簡単で使いやすいことから、学校教育に採用され、大正10年には国産品も市場に現れるようになりました。

ぺんてるは「小さな子どもたちが使う」ことを念頭に置き、くれよんに描くこと（ドローイング）と、塗ること（ペインティング）が可能で、色をたくさん重ねたり、混ぜたりすることが自由自在にできるもの、そして暑さや寒さにあまり変化されない発色の美しい、全く新しい「ぺんてるくれよん」の開発に成功。昭和30年の発売以来、いまでも変わらず、子どもたちに愛されています。



ミニロボ1号



ミニロボ2号



ミニロボ3号



ミニロボ4号



ミニロボ5号

ミニのりものあそびセット ¥18,900税込 (¥18,000税別)

サイズ:約7×5×高さ5cm 重さ:約30g/1個 材質:軟質ポリウレタン カラー:6色(赤・青・黄・橙・緑・黄緑)
内容:消防車・バトカー・船・スペースシャトル・新幹線・客車/各12 計72個セット 収納ケース付き



ジャクエツ
www.jakuettsu.co.jp

ジャクエツのマークは幼児の安全・安心をお約束する印です。